平成31（2019）年度
お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士後期課程）
Guidelines for Application to the 2019
Doctoral Program
Graduate School of Humanities and Sciences
Ochanomizu University

学生募集要項

[一般入試]
[外国人留学生入試]
（注）生活工学共同専攻学生募集要項は別冊子です。

お茶の水女子大学
Ochanomizu University
〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
☎ 03（5978）5697
HP http://www.ac.ocha.ac.jp/
※試験日期は社会情勢により、急きょ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらためて通知します。随時、ホームページで最新情報を確認してください。
（注）お茶の水女子大学博士前期課程から引き続き学内進学する者は、留学生も含めて「進学者選考要項」で出願すること。ただし生活工学共同専攻への進学を志望する者は、「生活工学共同専攻学生募集要項」（別冊子）で出願すること。
目次

I. 各専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） —— 1
   比較社会文化学専攻  
   人間発達科学専攻  
   ジェンダー学際研究専攻  
   ライフサイエンス専攻  
   理学専功

II. 学生募集日程等
   1. 専攻・領域及び募集人員 ———— 5
   2. 試験期日 ———— 5
   3. 出願資格 ———— 5
   4. 出願期間 ———— 6
   5. 出願方法 ———— 6
   6. 選考方法 ———— 6
   7. 試験場所 ———— 6
   8. 10月入学について ———— 6
   9. 合格発表 ———— 7
   10. 入学時期 ———— 7
   11. 検定料、入学料及び授業料 ———— 7
   12. 注意事項 ———— 7
   13. 入学手続き関係書類 ———— 8
   14. 学生支援について ———— 8
   15. 長期研修学生制度について ———— 8
   16. 個人情報及び試験成績の利用について ———— 8
   17. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先 ———— 8

III. 選考方法詳細
   【全専攻共通】
   1. 出願書類 ———— 9
   2. 試験科目 ———— 10
   3. 試験日程 ———— 10
   4. 口述試験要領 ———— 11
   【各専攻詳細】
   比較社会文化学専攻 ———— 11
   人間発達科学専攻 ———— 11
   ジェンダー学際研究専攻 ———— 12
   ライフサイエンス専攻 ———— 12
   理学専攻 ———— 13

Entrance Examination for International Students ———— 14

IV. 担当教員及び主な授業科目 ———— 25

「お茶の水女子大学 コンピュエンスストアでの入学検定料支払方法のご案内」 ———— 33

本学所定用紙（出願書類） Prescribed form
・入学願書・写真票・受験票 (Application Form/Photo Ticket/Examination Admission Ticket)
・別紙「提出書類一覧」
・別紙「審査論文調書」
・推薦書
Ⅰ．各専攻・領域の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
※生活工学共同専攻の概要及び入学者受入方針については、生活工学共同専攻学生募集要項を参照してください。

１．目的
博士後期課程は、高度の専門研究及び専門職分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

２．標準修業年限
３年

３．専攻及び入学定員

<table>
<thead>
<tr>
<th>専攻</th>
<th>比較社会文化学専攻</th>
<th>人間発達科学専攻</th>
<th>ジェンダー学習・研究専攻</th>
<th>ライフサイエンス専攻</th>
<th>理学専攻</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>入学定員</td>
<td>27</td>
<td>14</td>
<td>4</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※生活工学共同専攻については、入学定員2名です。

４．課程の修了
学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

５．取得できる学位
学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。
専攻分野に応じて、学位が授与される。

６．各専攻・領域の要旨及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

① 比較社会文化学専攻
比較社会文化学専攻では、社会と文化に関する高度に学際的かつ総合的な専門研究を行うことを通じて、人間文化の基礎理論の確立を目指している。また、国際の視野の中で日本研究を推進し、総合学としての日本学を世界に発信していくことを企図している。
本専攻では、こうした目的に即しつつ自立的に研究を行うに際して強い自覚を持った人材を求めており、特に以下の2点を、前提として強調していただきたい。
１．資料や文献を読解するため、また、国際的な研究交流を遂行するために必要な語学力を有していること。
２．日本を含む世界各地域の過去もしくは現在の社会構造等、アジア・欧米の言語・文学・思想等、日本を含む世界各地域の芸術作品・芸術活動等のいずれかの分野において、上記の研究の基礎となる知識と研究能力を有していること。

<table>
<thead>
<tr>
<th>領域</th>
<th>要旨</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国際日本学</td>
<td>国際日本学領域は、本学の戦略的研究・教育領域として位置づけられており、国際的に多様化する大学院教育の現状に対応し、国際的視野のなかで日本研究を進め、文学・言語学・歴史学・思想・文化・身体論の総合学としての日本学を世界に発信する人材を養成することにより、日本研究における世界的な教育拠点となることを目標としている。本領域に進学する学生には、それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえた日本に関する学際的な関心の構築を、総合的な知的秩序の従属や、学際的拡張への積極的な参加や、そうした活動の基礎となる外国語能力の向上による国際性の養成に留意して、研究を進めていくことが期待される。</td>
</tr>
<tr>
<td>言語文化論</td>
<td>アジア、欧米を中心に各国文学・言語学・言語教育学の専門知識を深め、高度な研究を行う。必要に応じて領域横断的な研究視点を拓き入れるとともに、言語の研究、言語を介した文学・文化の研究における新たな視点を国際的に発信する能力を養う。</td>
</tr>
<tr>
<td>比較社会論</td>
<td>哲学思想・歴史からスポーツまでを対象に、過去の思想・歴史を踏まえつつ、日本・アジア・欧米・イスラム世界の諸地域を相互に比較横断的・分析を推し進める領域である。社会分析的視点を幅広に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を進めていくことが期待される。</td>
</tr>
<tr>
<td>領域</td>
<td>要旨</td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td>教育科学</td>
<td>人間の生涯における発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、語教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程・教育方法論、教育開発論を設置する。当領域では、人間の発達について教育科学的に考えることができる研究者および研究者の視点をもつ実践者の育成をめざしている。</td>
</tr>
<tr>
<td>心理学</td>
<td>心理学領域では、人間の心理を哲学として、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多様な実験的・総合的に検証し理解する。そのために次のような授業を設ける。「発達心理学先端研究」「認知科学論」「メディア心理学」「健康行動論」「発達精神病理学」。これらの授業を通じて、心理学領域の研究者を育成することが、本領域の目的である。心理学の研究者や専門職となることを希望する学生を期待する。すでに心理学の基礎的・応用的方法論や統計的手法を習得していること。英語で学術論文を作成する力を持つ、広い分野において発達心理学」「認知心理学」「社会心理学」「臨床心理学」「健康心理学」「教育心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすることができるという学生を育成する。</td>
</tr>
<tr>
<td>発達臨床心理学</td>
<td>発達臨床心理学の教育および研究を行う。臨床心理学を基として、家庭、教育、医療、福祉、司法、産業などのさまざまな場における心理臨床的、発達的観点について専門的に対応する力を養成するとともに発達臨床心理学の研究を行う高度な研究能力を養う。臨床心理学の研究者および専門職となることを希望する学生を育成する。すでに臨床心理学の基礎的・応用的方法論や、統計的手法を習得していることが必要である。</td>
</tr>
<tr>
<td>社会学・社会政策</td>
<td>社会学を中心に、経済学、法学などを含む社会科学を基礎学問として、人間、社会、文化にかかわる諸現象を解明する。また、社会科学の研究における理論と実証の関係のみならず、実践との密接な結びつきを意識して、政策科学的な研究として発展させることを重視している。</td>
</tr>
<tr>
<td>保育・児童学</td>
<td>保育・子育て等の現場で生じている多様な問題を、多角的に分析・理解し、問題解決を図ることのできる高度な専門的知識と実践能力を備えた人材を育成することが目的である。具体的には、乳幼児期における保育・幼児教育、乳幼児期以降の親子の発達支援、0歳から学級期・児童期に至る教育など、研究者、専門職業人を養成する。乳児期・幼児期、児童期の発達過程、それにかかわる親や保育者・教師などの発達過程や教育に入り、社会的に要請される多様な問題の分析能力、課題解決や問題への対応方法、および授業方法について高度な知識と実践経験をもつ人材を目指す。専門領域における研究者、育児や教育のアドバイザーなどのリーダーとして活躍する人材を想定している。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
ジェンダー学際研究専攻

家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、法政策、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、福祉、医療など、個広い研究対象についてジェンダー視点を中心とした研究に開心を持ち、これらに関する諸問題の解決に寄与する方の入学を歓迎する。

入学には、社会科学、人文科学等の学問領域で優れた修士論文またはそれに代えるものを完成させていることが必要である。入学後は、1年次から毎年、学会発表、学会誌への投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究活動を挙げることができ、3年間で博士論文を完成することが期待される。研究指導を受けたいと考える教員に必ず事前に相談すること。

なお、本専攻において取得できる学位は、学術、人文科学、社会科学、生活科学である。

<table>
<thead>
<tr>
<th>領域</th>
<th>要旨</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ジェンダー論</td>
<td>ジェンダーを中心とした理論的検討、実証的・政策的課題を探究する。ジェンダー視点を中心として分析を家族、労働、人権、教育、開発、経済、政治、国際関係、国際協力、地域計画、環境、科学技術、医療など、ある一政策分野において必要とされている。学問領域を超えたジェンダー課題群を中心に、主体的に取り組む人材の育成をめざす。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

ライフサイエンス専攻

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス各分野の発展に寄与するため、「生命科学」、「人間・環境科学」等の学問領域の統合的・開発的な研究を、人間を生命、生活の両面から捉える。そのために、生命科学領域、人間・環境科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域、疾患予防科学領域を設置する。本専攻ではライフサイエンス全般を基礎から学び、生命サイエンス分野の研究者として自立できる、また指導的役割を担う人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、ライフサイエンスに関する課題を設定し、実験を主体として研究計画を立案し、実施し、その結果を公表することが求められる。そのため、研究に対する強い自己主導と意欲を持った上で、文献調査能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、発表能力等が求められる。

<table>
<thead>
<tr>
<th>領域</th>
<th>要旨</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 生命科学 | 高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。
| 人間・環境科学 | 本領域では、生活する人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境が人間にとって的効果をもたらすような設計・制御を行うことを目的とする。具体的には、生活空間内における人間・環境の物質・エネルギーの交換、体を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料特性・人間の心理面から総合的に研究を行う。また、生物としての人間、すなわちヒトの本質・自由・変異などに関する研究も行う。人間と環境の境界領域（インタフェース）の本質を人間及び環境の視点から科学的・工学的に捉えた上で、我々の生活を向上させるためのインタフェースの改良策を具体的に提案することに研究の主眼を置いて。 |
| 食品栄養科学 | 本領域では、食と栄養に関する基礎研究から応用開発に至る領域を対象とし、健全な食生活を構築するために、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析・解決する。食や栄養に関する基礎的実験から応用開発や臨床対応まで可能で食と栄養の相関性を探究する。具体的には、大学病院研究機関の研究者、食品栄養士のリーダー、栄養士や栄養士養成校の教員、公認栄養士、食品企業の研究者、病院管理栄養士などを含む。本領域では、食品の品質、機能、嗜好性、安全性、健康食品と新食を含めた食を取り扱う中で、科学的検証に基づき、新食学問分野の開拓と、進化の指導のための教育推進に資する人材を育成する。人類史と医学の研究に対する深い理解を基盤に持ち、国際的視野から日本における新しい分野の確立に貢献する意欲と能力が必要とされる。 |
| 遺伝カウンセリング | 遺伝カウンセリングという新しい学際領域で活躍する先端の人材を養成することを目的とする。遺伝カウンセラーとしての知識、技術、臨床実践の研鑽をふくめて、遺伝カウンセリング学の構築と、家族医療に寄与する研究を遂行し、新しい学問分野の開拓と、進化の指導のための教育推進に資する人材を育成する。人類史と医学の研究に対する深い理解を基盤に持ち、国際的視野から日本における新しい分野の確立に貢献する意欲と能力が必要とされる。 |

 lý学専攻

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際的に整合的に教育研究し、新しい科学の創成を目指す次世代を抱える人材を養成することを目的としている。研究に必要な基礎能力と強い意欲をもって研究者、高度専門技術者を目指す女性はもちろんのこと、社会人としての基盤を確かながらより高度な専門的専門的の前進に望む方や独自のライフスタイルで学問を完結することを志す女性を広く求めたい。
<table>
<thead>
<tr>
<th>領域</th>
<th>要旨</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>数学</td>
<td>代数、解析、幾何の純粋数学各分野における高度に専門的な教育研究並びに数理的方法論を適用する応用数学分野における専門的な教育研究を行い、自立して研究活動を行う能力、数理の立場からの学際的研究能力を培うことを目標とする。この教育目標に沿って、確かな数学の力をのに、自ら課題を見出し自ら解決の方向性を探る自立した研究者となるようという志をもって、自己の専門分野のみならず関連分野や新しい分野、課題も積極的に学ぼうという姿勢をもった学生を受け入れる方針である。</td>
</tr>
<tr>
<td>物理科学</td>
<td>物理学の各分野及び他領域との関連分野における最先端の研究を通じて、それぞれの分野において高度な専門性を有し研究者としての素養を身につけた人材を育成するための教育を行っている。物理学の各分野における十分な基礎学力を有するとともに、将来、研究者として自立し、国際的な視野をもって指導的役割を果たす人物になるようとする自覚と意欲をもった学生を求めている。</td>
</tr>
<tr>
<td>化学・生物化学</td>
<td>物質を構成する広範な有機・無機分子、金属錯体及び分子集合体、さらに生体を構成する生体関連分子、蛋白質や核酸などを対象に、物質科学、材料科学、物質創成科学、複雑系科学及び生命科学などの各分野に広がる教育研究を行う。諸現象を原子・分子レベルから解明する意欲と学際領域への興味をもって、国際的視野を拡げつつ、研究における創造性と自立性を高める努力をはかならない人を歓迎する。</td>
</tr>
<tr>
<td>情報科学</td>
<td>情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が、互いに連携しつつ研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにする。すなわち、次世代情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれる様々な情報の利用・解析手法を研究する。これに共感する人材を隆盛を問わず広く受け入れている。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
I. 学生募集日程等
1. 専攻・領域及び募集人員

<table>
<thead>
<tr>
<th>専攻</th>
<th>領域</th>
<th>9月入試</th>
<th>3月入試</th>
<th>募集人員（注）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>比較社会文化学専攻</td>
<td>国際日本学領域</td>
<td>×</td>
<td>○</td>
<td>27名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>言語文化論領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td>若干名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>比較社会論領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>表象芸術論領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>人間発達科学専攻</td>
<td>教育科学領域</td>
<td>×</td>
<td>○</td>
<td>14名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>心理学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td>若干名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>発達臨床心理学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>社会学・社会政策領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>保育・児童学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ジェンダー学際研究専攻</td>
<td>ジェンダー論領域</td>
<td>×</td>
<td>○</td>
<td>4名</td>
</tr>
<tr>
<td>理学専攻</td>
<td>生命科学領域</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>13名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>人間・環境科学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td>若干名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>食品栄養科学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>遺伝カウンセリング領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>理学専攻</td>
<td>数学領域</td>
<td>○</td>
<td>○</td>
<td>13名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>物理科学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td>若干名</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>化学・生物化学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>情報科学領域</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注) 募集人員には、一般入試、外国人留学生入試以外の進学者選考の募集人員を含む。

※「生活工学共同専攻」の入試については、「生活工学共同専攻学生募集要項」を参照してください。

2. 試験期日

<table>
<thead>
<tr>
<th>9月入試</th>
<th>平成30年9月10日(月)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>3月入試</td>
<td>平成31年3月5日(火) 至 6日(水)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※ 試験期日は社会情勢により、急きょ変更になる可能性があります。変更があった場合は、あらためて通知します。詳細は、ホームページで最新情報を確認してください。

3. 出願資格

【一般入試】
下記(1)～(8)のいずれかに該当する者とする。

【外国人留学生入試】
下記(1)～(8)のいずれかに該当する中国在籍の在籍者で、出入口管理局及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び入学者に相当する見込みの者とする。

なお、ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリング領域については、下記に該当し、かつ認定遺伝カウンセラー養成専門課程修了（見込）者もしくは認定遺伝カウンセラーの資格をもつ者に限る。

※ ただし、10月入学は、該当領域の出願者のみ対象とし、下記平成31年3月31日を平成30年9月30日と読むことができる。

(1) 修士の学位又は専門職学位を有する者（平成31年3月31日までに取得見込の者を含む）
(2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成31年3月31日までに授与見込の者
(3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成31年3月31日までに授与見込の者
(4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの及び当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位を授与された者及び平成31年3月31日までに授与見込の者
(5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成31年3月31日までに授与見込の者
(6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学において教育課程を履修し、大学院院生院基礎第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
(7) 文部科学大臣の指定者(平成31年文部省告示第118号)【参考】参照
(8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた
4. 出願期間

| 9月入試 | 平成 30年7月30日（月）～8月1日（水）【必着】
| 3月入試 | 平成 31年1月8日（火）～11日（金）【必着】

但し、出願資格（6）～（8）に該当する者の出願手続きは、次のとおりとする。

資格審査：9月入試：平成30年7月2日（月）～7月3日（火）【必着、但し7月2日（月）の消印は受理不可】
出願期間：3月入試：平成30年12月4日（火）～5日（水）【必着、但し12月4日（火）の消印は受理不可】
（検定料振込み及び返信用封筒を除いた出願書類を提出すること）

資格審査結果：9月入試：平成30年7月20日（金）までに申請者あて郵送により通知する。
3月入試：平成30年12月21日（金）までに申請者あて郵送により通知する。

出願資格を認められた者は、所定の出願期間内に検定料（30,000円）を振込み、納入証明書（大学提出用）又は収納証明書及び返信用封筒を提出すること。

5. 出願方法

本学所定の封筒に出願書類を一同し、書留速達で郵送すること。郵送等以外は受付けないので注意すること。
なお、論文等が封筒に入りきらない場合には、「書留速達小包」として送っても配車支えないので大学窓口では直接受け付けないので注意すること。
受験票は10月入試票要領・日程案内等を同封の上、後日送付する。試験日の7日前までに、郵送予定。また、この受験票は入学手続きの際でも必要となるので、紛失しないように注意すること。

6. 選考方法

学力検査（言語試験・口述試験）及び出願書類を総合して行う。
詳細については、各専攻ごとに定められてので、p.9からの「III.選考方法詳細」を参照のこと。

7. 試験場所

お茶の水女子大学

8. 10月入学について

次の専攻・領域について10月入学（入学時期：平成30年10月）を希望する者は、平成30年9月入試時に出願することができる。希望する場合は、入学願書・写真票及び受験票の入学希望時期欄の「平成30年10月入学」にチェックすること。合格を許可された後で、4月入学に変更はできないので注意すること。
ただし、10月入学の場合は、30年度の専攻・領域に所属し、30年度の授業科目を履修することになるので、注意すること。また、志望教員には、必ず事前に連絡をとること。
○ライフサイエンス専攻
○理学専攻
生命科学研究科、人間・環境科学研究科、食品栄養科学研究科
全領域
9. 合格発表

| 9月入試 | 平成30年9月14日（金） | 12時 |
| 3月入試 | 平成31年3月13日（水） | 17時 |

(1) 「本学南門掲示板」に合格者の受験番号を掲示する。

(2) 合格者には、発表当日、あて名シール（出願書類）の住所に合格通知書を速達で発送する。
なお、入試ホームページにも合格者の受験番号を掲載する予定。
入試ホームページURL  http://www.so.ocha.ac.jp/
(注) 電話等による合否の問い合わせには応じない。

10. 入学時期

平成31年4月（平成30年10月入学者を除く。）

11. 検定料、入学料及び授業料

<table>
<thead>
<tr>
<th>検定料</th>
<th>30,000円</th>
</tr>
</thead>
</table>
| (1) 平成31年4月入学者
| 入学料 | 282,000円 (予定額) |
| 授業料 | 前期分 267,900円 (年額 535,800円) (予定額) |
| (2) 平成30年10月入学者
| 入学料 | 282,000円 |
| 授業料 | 半期分 267,900円 (年額 535,800円) |

入学手続きに従う額は、半期（後期）分のみである。

(注1) 検定料は検定料以外の授業料はコンピュータシステムで添付の取り扱い用紙により支払うこと（手数料は本人負担）。

(注2) 日本以外から出願する場合、可能な限り代理人（日本に在住する者）が日本国内からの添付に方法により添付すること。添付を出願する場合は、振込銀行手数料（海外銀行分）と振込手数料（日本国内銀行分）の方が出願者（出願者）負担となるよう裏で申し出た上で、必ず日本円で振込込むようにすること。その上で、検定料の全額が、出願期間内に大学に到着するように送金すること。

【海外送金の場合の必要情報】

銀行名（Bank name）: MUPG Bank, Ltd.
支店名（Branch）: Head Office
銀行住所（Address）: 2-7-1, Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan
受取名義人（Beneficiary）: Ochanomizu University
口座番号（Account No.）: 7876401
SWIFTコード: BOTKJPJT

(注3) 日本国外から出願する場合、原則的に徴収しない。

(注4) 入学時及び在学中に授業料に関しては、改定時に新規料が適用される。

(注5) 4月入学者は、前期分の授業料を入学手続き期間内に納付しない場合は、4月1日から5月31日までの間に納付することになる。希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができる。

(注6) 入学時には、上記入学料、授業料のほか学生教育研修事業の定例料など若干の報酬を要する。

(注7) 入学手続き後は、事情により入学を辞退した場合でも、入学料の返還はしない。

(注8) 式込済の検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しない。

- 検定料を振込込んだ後で本学に出願しなかった。
- 検定料を振込込んだ後で出願が受理されなかった。

検定料は、出願者の未返還請求に基づき返還しますので、大学の返還や請求に該当する場合には、平成31年3月15日（金）までにお茶の水女子大学入試課に連絡してください。（出願後に出願を取りやめた場合は、返還請求に該当しません。）

12. 注意事項

(1) 同一入試日程では、2専攻に出版することはできない。

(2) 提出された書類に不備がある場合には、受理しない。また出願受理後は、いかなる事情があっても、出願書類等の変更・返却及び検定料の払い戻しの請求には応じない。

(3) 出願について、不明な点がある場合には、入試課（次頁の問い合わせ先）に問い合わせること。

(4) 合格・不合格に関する電話等により問い合わせは一切応じない。

(5) 受験票は、入学手続き（合格者）の際にも必要となるので、紛失しないように注意すること。

(6) 出願期限内に提出された書類が、合格後入学者に該当する場合には、受験票を確認すること。

(7) 出願の書類について、虚偽の申請、不正等の事実が判明した場合は、入学決定後でも入学者を除くことが
ある。
(8) 志願者に対する宿泊施設の紹介、斡旋は行わない。
(9) 最新情報はホームページで公表する。URL: http://www.ocha.ac.jp/
(10) ２つ以上の専攻に記載されている教員を指導教員にする場合には入試結果に問い合わせること。

13. 入学手続き関係書類

9月入試：
  平成31年2月中旬頃に郵送する。
  ただし、10月入学者は、合格通知書に同封する。
3月入試：
  合格通知書に同封する。
※ 合格通知後、住所を変更した場合は必ず入試係へ届け出ること。
※ 入学手続き関係書類の中、入学手続き期間には注意すること。10月入学者については、合格発表から入学手続きまでの期間と手続き期間ともに問題となるので特に注意すること。

14. 学生支援について

経済的理由により入学料、授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者に対し、選考の上、入学料、授業料の全額又は半額を免除、あるいは奨学金を貸与する制度があります。
また本学に設置された後援団体利用スポンサーによる学生に奨学の一部を援助する育児支援奨学金があります。
その他日本学生支援機構による奨学金、民間の法人や団体からの奨学金等、学生支援に関する詳細は、本学ホームページを参照してください。
○入学料及び授業料の免除・奨学金制度について http://www.ocha.ac.jp/campuslife/info/exemption.html
○奨学金について http://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/about.html
○学生寮について http://www.ocha.ac.jp/campuslife/lodgings/index.html
不明な点については、本学学生・キャリア支援課（下記）に問い合わせてください。
 入学料及び授業料免除、学生寄宿舎担当 TEL 03-5978-2646, E-mail gakusei@ocha.ac.jp
 奨学金担当 TEL 03-5978-5143, E-mail gakusei@ocha.ac.jp
 ただし、外国人留学生の奨学金については、国際課（下記）に照会してください。
 留学生奨学金担当 TEL 03-5978-5143, E-mail ryugai@ocha.ac.jp

15. 長期履修学生制度について

職業を有する等の事情により、一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が制限され、標準修業年限で修了することが困難な学生を対象として、長期履修学生制度を導入しています。そうした事情にある者は、3年間で設定されている修業年限を4年間又は5年間で履修し、課程を修了することを認められることがあります。（全体の申請者が適用される訳ではなく、制度の趣旨に沿っているかを学内の委員会で審査し、適用の可否を決定します。）「職業を有する等」とは、有職者（正規雇用、臨時雇用、パートタイムなど正規に近い勤務時間の者）、自営業者、家族、介護、看護等の事情にあることをいいます。
長期履修学生として認められた場合の授業料は、「定められた授業料の年額」に「修業年限に相当する年数」を乗じて得た額を、「在校期間の年数」で除して得られた額となります。
長期履修学生を希望する者は、入学手続き期間内に申請書類を提出してください。不明な点については、本学学務課（TEL 03-5978-5821, E-mail daigakuin@ocha.ac.jp）に問い合わせてください。

16. 個人情報及び試験成績の利用について

(1) 大学が取得した氏名、住所、成績及び学修状況等の個人情報は、入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金の選考等）及び授業料等に関する業務を行う為に必要な範囲内で利用します。
(2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試の改善や志願動向の調査・分析及びこれらに付随する業務を行う為必要な範囲内で利用します。

17. 学生募集及び入学試験に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学 入試課
〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
TEL (03) 5978-5877 （土日祝日除く平日 9時～17時受付）
FAX (03) 5978-5895
E-MAIL nyushii@ocha.ac.jp
### 選考方法詳細

【全専攻共通】

1. 出願書類（1〜10は全員提出、11は外国人留学生のみ提出）

| 入学願書 | 受験票 | 学真票 | 本学所定の用紙 | 5cm×4cmで出願前3か月以内に撮影した写真2枚を指定個に貼付。受験票は入学手続の際にも必要となる。
|---|---|---|---|---
| 修士課程修了（見込）証明書 | 最終出身校の長が作成したもの（注2） | (コピー不可。外国の大学を卒業した者で、卒業証書しかない場合は、大使館の公証等の証明を受けたものを提出すること。)
| 修士論文等（注1） | 2部 ※各専攻ごとに詳細参照のこと。 | 提出論文は、試験終了時に返却する。
| 修士論文等の要旨 | 6部 ※各専攻ごとに詳細参照のこと。 | 提出事項にそっていれば、用紙の紙幅・紙厚・黒紙・自筆の別は自由。
| 研究計画書 | 比較社会文化学専攻・人間発達科学専攻・ジェンダーゼ学際研究専攻は、日本語1,000字前後、横書き、A4用紙2枚以内におさめること。
| | ライフサイエンス専攻・理学専攻は、日本語1,000字前後、又は英語400語程度で、A4用紙2枚以内におさめること。
| 成績証明書 | 博士前期課程（修士課程）のもの（コピー不可） | 30,000円 銀行振込又はコンビニエンスストアでの払込に限る。

【銀行振込の場合】
| ゆうちょ銀行以外の金融機関で所定の振込用紙により支払うこと。 (手数料は本人負担。) ご依頼人名義振込は必ず受験者氏名を記入すること。振込依頼書の納入済票（大学提出用）部分のみを切り離し「検定科納付確認書」の所定の位置に貼付すること。
| コンビニエンスストアでの払込の場合 | コンビニエンスストアは、セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、サーカルK・サンクス、ミニストップに限る。
| | 竣職の払込に関する作業手順や注意事項については、p.38「お茶の水女子大学 コンビニエンスストアでの入学検定料支払方法のご案内」を参照のうえ払い込むこと。
| | （手数料は本人負担。）「収納証明書」部分を切り取り、「検定料納付確認書」の所定の位置に貼付すること。
| | ※日本政府国費外国人留学生は原則的に不要のため、国費外国人留学生であることを記載した証明書を提出すること。なお、本学を進学希望校として奨学金支給期間延長申請をしている場合に限る。
| 送信用封筒 | 本学所定の封筒に宛名を明記し402円切手（定形郵便92円+簡易書留310円）を貼付すること。
| | ※日本国内の住所を記入すること。
| | ※後日、受験票及び履歴研究書等を試験日の7日前までに届くように郵送予定。
| あて名シール | 合格通知に必要なので、確実に連絡が取れる住所を記入すること。
| 提出書類一覧 | 別紙。封筒に入れた全ての書類の部数について記入し同封すること。

(外国人留学生のみ追加提出書類)

11. 住民票の写し等
(外国人留学生のみ)

出願時日本に在住している場合は、市区町村発行の「住民票の写し（在日資格が明記されたもの）」を提出すること。
(注1) 修了見込の学生の論文提出期限については、「各専攻詳細」を参照すること。

(注2) 旧姓（名）の修了証明書を使用する場合は、改姓した旨（例：平成〇年〇月〇日、婚姻により改姓）を証明書の余白に記載すること。

(注3) これらの書類の他に、指導教員又はそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

(注4) 出願書類のうち、英語以外の外国語で書かれた証明書類には日本語訳を添付すること。
2. 試験科目

<table>
<thead>
<tr>
<th>専攻</th>
<th>言語試験</th>
<th>試験</th>
<th>口述試験</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>比較社会文化学</td>
<td>英語・ドイツ語・フランス語・中国語から1言語を選択（辞書使用不可）</td>
<td>英語・ドイツ語・フランス語・中国語・日本語から1言語を選択（辞書使用不可・母国不可）</td>
<td>主論文及び研究計画</td>
</tr>
<tr>
<td>人間発達科学</td>
<td>英語（辞書使用不可）</td>
<td>英語（語学辞書持込可（電子辞書は除く））</td>
<td>主論文及び研究計画</td>
</tr>
<tr>
<td>ジェンダー学際研究</td>
<td>英語（辞書使用不可）</td>
<td>英語（対する英和辞書のみ使用可）</td>
<td>主論文及び研究計画</td>
</tr>
<tr>
<td>ライフサイエンス</td>
<td>英語</td>
<td>英語</td>
<td>主論文及び研究計画</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注) 言語試験で選択する言語を入学願書、写真票及び受験票に記入すること。

3. 試験日程

9月入試

<table>
<thead>
<tr>
<th>言語試験</th>
<th>口述試験</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平成30年9月10日（月）</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>10時00分～18時45分</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

3月入試

<table>
<thead>
<tr>
<th>言語試験</th>
<th>口述試験</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平成31年3月5日（火）</td>
<td>平成31年3月6日（水）</td>
</tr>
<tr>
<td>10時30分～11時50分</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>13時30分～18時45分</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>10時00分～18時45分</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注1) 口述試験はこの内の40分間であり、個人の日時については受験票送付の際、あわせて通知する。
(注2) ライフサイエンス専攻では、口述試験時に英語の試験を行うので、言語試験を受験する必要はない。
4. 口述試験要領
（1）言語試験を提出された者は、言語試験を受けなければ口述試験は受験できない。
（2）口述試験は、本学で指定する日時とその範囲の内、受験票と一緒に口述試験日程案内を送付する。
（3）試験においては、修士論文（又はそれに代わるもの）及び研究計画の内容・意義について比較文化論文は10分程度、人間発達科学専攻・ジェンダート学際研究専攻・ライフサイエンス専攻・理学専攻は15分程度の説明を求める。なお、ライフサイエンス専攻では、該当者に専門分野の英語の試験も実施する。
（4）使用機器はノートパソコンを除き試験室に用意するので、機器を使用する者は、頃審の口述試験使用機器欄の使用機器に○を付けること。なお、出願受理後を含め約2年以内の出願受理後を含め約2年以内の出願受理後を含めた、内容においては、注意すること。
・貸出する機器はCPU、PCプロセッサー、CDプレーヤー（カセットテープレコーダー兼用）とする。
なお、ノートパソコンの貸出はしないので、持参すること。
なお、機器を使用する者は、うまく撮影できない場合等に備えて、内容をプリントアウトし、4部配付用に持参すること。
（5）口述試験終了後に、試験担当教員から修士論文（又はそれに代わるもの）を返却される。

【各専攻詳細】※ 出願書類の内、3. 修士論文等、4. 修士論文等の要旨について

比較社会文化学専攻

修士論文等 2部

ただし、修士論文提出後、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれらを添付することができる。
（各2部）
また、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。（別主題論文）
修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。（別主題論文）
別主題論文の場合、別紙「審査論文審査」を添付すること。（2部）
※ 修士論文（又は、それに代わるもの）の内容が示す研究分野と大きく異なる場合は、示す研究分野に沿った内容の論文を添付することが望ましい。（2部）
※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部）

修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部

2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。

（注1）3月入試出願に際し、出願期間以降（平成31年1月11日（金）以降）に修士論文の提出締切がある
修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を頃審に記載し、論文本体は平成31年1月25日（金）
【必着、但し1月24日（木）の消印は受理】までに書留速達で提出すること。1月25日（金）以降
に提出締切がある場合には、1月24日（木）時点で論文本体を1月25日（金）必着（1月24日（木）
の消印は受理）で提出すること。
（注2）出願に際しては、指導を望む教員の専門と合致しているか、あらかじめ確認しておくことができる。

人間発達科学専攻

修士論文等 2部

ただし、修士論文を補足する研究成果のある場合はそれらを添付することができる。（各2部）
また、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。（別主題論文）
修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。（別主題論文）
別主題論文の場合、別紙「審査論文審査」を添付すること。（2部）
※ 日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。（2部）

修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部

2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。

（注1）修士論文とは、所属機関にて実行に修士論文として位置付けられているものに限られる。
（注2）3月入試出願に際し、出願期間以降（平成31年1月11日（金）以降）に修士論文の提出締切がある
修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を頃審に記載し、論文本体（所属機関に提出締切内に
提出したもの）は平成31年1月25日（金）必着（但し1月24日（木）の消印は受理）までに書留
速達で提出すること。1月25日（金）以降に提出締切がある場合には、1月24日（木）時点で論文
本体を1月25日（金）必着（1月24日（木）の消印は受理）で提出すること。
ジェンダー学際研究教導

修士論文等 2部

ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれを添付することができる。（各2部）
また、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、修士論文に代えてその論文を審査の対象とすることができる。（別主題論文）
修士論文を添付しない場合は、これに相当するものを提出すること。（別主題論文）
別主題論文の場合、別紙「審査論文提出書」を添付すること。（2部）

修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部

論文要旨は日本語又は英語で提出すること。
日本語ならば2,000字以内
英語ならば 800字以内 で A4 判用紙 3枚以内
（図表を含む）におさめること。

ライフサイエンス専攻

A
①修士課程（博士前期課程）を修了した者
②修士課程（博士前期課程）を修了見込みの者
③資格審査該当者

B
③修士課程（博士前期課程）に在学し
9月試験を受験する者
※9月修了見込みの者は、Aに従う

修士論文等 2部

ただし、修士論文を補足する論文がある場合は、それを修士論文に添付すること。（各2部）
また、修士論文とは異なる論文で審査を希望する場合は、修士論文の代わりにその論文（複数可能）を各2部提出すること。（別主題論文）
なお修士論文がない場合は、修士論文に相当すると考えられる論文、著作、論演要旨、活動成果（必ずしも印刷・口頭発表したものでなくてもよい）などを審査論文（複数可能）として各2部提出すること。（別主題論文）

本学グローバル理工学専攻の修士課程は、「グローバル理工学研究」の研究成果、並びに「PBTS-I」の成果のそれぞれについて、日本語 5,000字程度又は英語 2,000字程度にまとめたもの、あるいは、それに代わるものを6部提出すること。

修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部

論文要旨は日本語又は英語で提出すること。
日本語ならば2,000字程度
英語ならば 800字程度 で A4 判用紙 3枚以内（図表を含む）におさめること。

本学グローバル理工学専攻の修士課程は、要旨の提出は不要。
理学専攻

| A | ①修士課程（博士前期課程）を修了した者
②修士課程（博士前期課程）を修了見込みの者
③資格審査該当者 |
|---|---|
| B | ④修士課程（博士前期課程）に在学し
9月試験を受験する者
※9月修了見込みの者は、Aに従う |

修士論文等 2部

修士論文を提出する研究分野がある場合は、それらを添付することができます。（各2部）
修士論文以外に別主題について論文がある場合は、その論文を審査論文として提出することができます。（別主題論文）
なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを作成し提出すること。（別主題論文）

修士論文に代わるもの 6部

修士論文として提出する予定の研究内容を
日本語 5,000字程度
英語 2,000字程度
一括記入（A4判用紙）

修士論文（主論文）の要旨（別主題論文の要旨） 6部

論文要旨は日本語又は英語で提出すること。
日本語ならば 2,000字程度
英語ならば 800字程度 で A4判用紙3枚以内（図表を含む）におさめること。

本学グローバル理工学副専攻履修者は、要旨の提出は不要。

（注1）3月入試出願に際し、出願期間以降（平成31年1月11日（金）以降）に修士論文の提出締切がある
修了見込の学生は、論文題目と論文提出締切日を願書に記載し、論文本体は平成31年1月25日（金）
【必着、但し1月24日（木）の消印は受理】までに審査速達で提出すること。1月25日（金）以降
に提出締切がある場合には、1月24日（木）時点での論文本体を1月25日（金）必着（1月24日（木）
の消印は受理）で提出すること。
なお9月入試出願に際しては、出願者は全員、必要書類を出願期間内に提出すること。

（注2）出願に際しては、指導を希望する教員又はその教員が所属する領域代表の教員にあらかじめ問い合わせておくこと。領域代表教員については、理学専攻の「担当教員及び主な授業科目一覧」を参照のこと。
<table>
<thead>
<tr>
<th>凡例</th>
<th>姓名</th>
<th>住所</th>
<th>部門</th>
<th>学歴</th>
<th>研究</th>
<th>メールアドレス</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>教授</td>
<td>伊藤 さとな</td>
<td>中国 annotated culture and history</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>比較言語学</td>
<td><a href="mailto:shinozaki@trinity.hokudai.jp">shinozaki@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>高橋 公春</td>
<td>形式言語学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>形式言語学</td>
<td>email: <a href="mailto:koji.takahashi@trinity.hokudai.jp">koji.takahashi@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>大倉 与子</td>
<td>先進言語学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>先進言語学</td>
<td>email: <a href="mailto:yoneko.takahara@trinity.hokudai.jp">yoneko.takahara@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>佐藤 功</td>
<td>语言と文化のコンピューターサイエンス</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>语言と文化のコンピューターサイエンス</td>
<td>email: <a href="mailto:yoshifumi.ozato@trinity.hokudai.jp">yoshifumi.ozato@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>富岡 宏幸</td>
<td>教育文化学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>教育文化学</td>
<td>email: <a href="mailto:hiroshi.takata@trinity.hokudai.jp">hiroshi.takata@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>天野 章</td>
<td>文化学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>文化学</td>
<td>email: <a href="mailto:toshio.tone@trinity.hokudai.jp">toshio.tone@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>仲野 克也</td>
<td>日本文化</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>日本文化</td>
<td>email: <a href="mailto:kita.atsutoshi@trinity.hokudai.jp">kita.atsutoshi@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>鳥越 光子</td>
<td>生命文化学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>生命文化学</td>
<td>email: <a href="mailto:ayako.urauchi@trinity.hokudai.jp">ayako.urauchi@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>原田 哲也</td>
<td>言語文化学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>言語文化学</td>
<td>email: <a href="mailto:kazutaka.harada@trinity.hokudai.jp">kazutaka.harada@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>須賀 剛</td>
<td>言語学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>言語学</td>
<td>email: <a href="mailto:katsutoshi.akechi@trinity.hokudai.jp">katsutoshi.akechi@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>西村 亮飛</td>
<td>音楽文化学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>音楽文化学</td>
<td>email: <a href="mailto:ryosuke.higashimura@trinity.hokudai.jp">ryosuke.higashimura@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>教授</td>
<td>阿部 奈津佳</td>
<td>言語学</td>
<td>言語学</td>
<td>国際学部</td>
<td>言語学</td>
<td>email: <a href="mailto:natsumi.abe@trinity.hokudai.jp">natsumi.abe@trinity.hokudai.jp</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>

注: このリストは示した様に一部不完全であり、詳細に注目してください。
null
### ジェンダー学に関する学位プログラム

<table>
<thead>
<tr>
<th>名称</th>
<th>サブタイトル</th>
<th>主研究分野</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>博士後期生</td>
<td>進修プログラム</td>
<td>学術研究話</td>
</tr>
<tr>
<td>修士後期生</td>
<td>進修プログラム</td>
<td>学術研究話</td>
</tr>
<tr>
<td>博士前期生</td>
<td>進修プログラム</td>
<td>学術研究話</td>
</tr>
<tr>
<td>修士前期生</td>
<td>進修プログラム</td>
<td>学術研究話</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 学期別授業計画

<table>
<thead>
<tr>
<th>単位</th>
<th>年度</th>
<th>単位</th>
<th>ケース研究</th>
<th>学術研究話</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1学期</td>
<td></td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2学期</td>
<td></td>
<td>4</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 修学計画

1. **主修分野**
   - ジェンダー学
   - 学術研究話

2. **学術研究話**
   - 学術研究話
   - ケース研究

3. **修士前期生**
   - 修士前期生
   - 修士前期生

4. **修士後期生**
   - 修士後期生
   - 修士後期生

5. **博士前期生**
   - 博士前期生
   - 博士前期生

6. **博士後期生**
   - 博士後期生
   - 博士後期生

### 修学年次

- 1年次：修士前期生
- 2年次：修士後期生
- 3年次：博士前期生
- 4年次：博士後期生

### 修学開始年月

- 修士前期生：平成28年3月
- 修士後期生：平成29年3月
- 博士前期生：令和元年3月
- 博士後期生：令和2年3月

### 修学完了年月

- 修士前期生：平成29年3月
- 修士後期生：令和元年3月
- 博士前期生：令和2年3月
- 博士後期生：令和3年3月

### 修学年数

- 修士前期生：3年
- 修士後期生：1年
- 博士前期生：3年
- 博士後期生：2年

### 修学点数

- 修士前期生：180点
- 修士後期生：120点
- 博士前期生：360点
- 博士後期生：240点

### 修学方法

- 学術研究話
- ケース研究

### 修学内容

- ジェンダー学
- 学術研究話

### 修学目的

- ジェンダー学の専門知識を深めること
- 学術研究の能力を向上させることが

### 修学評価

- 年末試験
- 研究発表会
- 学術研究報告書

### 修学管理

- 学部
- 大学院

### 参考文献

- ジェンダー学専門書
- 学術雑誌

### 資料復習

- 学術論文
- 講義ノート

### 注意事項

- 修学計画の変更は承認が必要です。
- 修学点数の不足は学内補講が必要です。

### 修学指導

- 学部
- 大学院

### 修学証明

- 修学証明書
- 学術研究証明書

### 修学成績

- 年次別成績
- 累計成績

### 修学問題

- 学術問題
- ケース研究問題

### 修学情報

- 学術研究情報
- ケース研究情報

### 修学連絡先

- 学部
- 大学院

### 修学相談

- 学術研究相談
- ケース研究相談
| 教授 | 千葉 匠udi | 理論・先端生物科学 | 未定 | 研究テーマ | 未定 | 研究分野 | 未定 |
| 教授 | KOHDA Kenji | Advanced Cell and Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | GONSALEZ Yanzhang | Cell Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | HAYASHI Yuki | DNA Replication | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | Takeda Masahiro | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | YAMADA Masahiro | Plant Molecular Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | KIKUCHI Kenji | Plant Molecular Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | MIYATA Kenji | Molecular Cell Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | ISHII Kenji | Molecular Cell Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | SAKI Tatsuo | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | YAMAMOTO Teruo | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | HASENKO Masao | Plant Molecular Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | KOBAYASHI Takeo | Plant Molecular Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | SUGIYAMA Kinya | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | ISHIKAWA Kinya | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | YAMAGuchi Takashi | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | TAMURA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | HIRATA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | TAKAEDA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | HIRATA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | TAKAEDA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | HIRATA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | TAKAEDA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |
| 教授 | HIRATA Kenji | Developmental Biology | 未定 | e-mail | 未定 | 未定 | 未定 |

(注) 1. 以下は、各教員によるものである。各教員の研究テーマは、研究内容に基づいて設定されたものである。
(注) 2. 2016年度の研究テーマは、変更される可能性がある。
<table>
<thead>
<tr>
<th>ライフサイエンス専攻 Life Sciences</th>
<th>位置</th>
<th>名前</th>
<th>領域</th>
<th>e-mail</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>岡本 こどり</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品保全学</td>
<td>Food Safety</td>
<td><a href="mailto:kodo-yamamoto@seas.kyushu-u.ac.jp">kodo-yamamoto@seas.kyushu-u.ac.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>沖田 あい</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品栄養学</td>
<td>Food Nutrition</td>
<td>aoi @kusakabe-kentei.co.jp</td>
</tr>
<tr>
<td>小川 みき</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品保存学</td>
<td>Food Preservation</td>
<td><a href="mailto:miki-kawaguchi@seas.kyushu-u.ac.jp">miki-kawaguchi@seas.kyushu-u.ac.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>山田 かず</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品工芸学</td>
<td>Food Technology</td>
<td><a href="mailto:kazumiyama@kusakabe-kentei.co.jp">kazumiyama@kusakabe-kentei.co.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>森本 なお</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品化学</td>
<td>Food Chemistry</td>
<td><a href="mailto:naoko-mori@kusakabe-kentei.co.jp">naoko-mori@kusakabe-kentei.co.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>東野 あゆみ</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品工芸学</td>
<td>Food Technology</td>
<td><a href="mailto:ayumi-udo@kusakabe-kentei.co.jp">ayumi-udo@kusakabe-kentei.co.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>阿部 あや</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品化学</td>
<td>Food Chemistry</td>
<td><a href="mailto:ayapabe@kusakabe-kentei.co.jp">ayapabe@kusakabe-kentei.co.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>木村 ひとみ</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品工芸学</td>
<td>Food Technology</td>
<td><a href="mailto:hitomi-murakami@kusakabe-kentei.co.jp">hitomi-murakami@kusakabe-kentei.co.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>佐藤 はる</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品化学</td>
<td>Food Chemistry</td>
<td><a href="mailto:haluroso@kusakabe-kentei.co.jp">haluroso@kusakabe-kentei.co.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>三宅 まどか</td>
<td>Assistant Professor</td>
<td>食品工芸学</td>
<td>Food Technology</td>
<td><a href="mailto:madaka-miyazaki@kusakabe-kentei.co.jp">madaka-miyazaki@kusakabe-kentei.co.jp</a></td>
</tr>
<tr>
<td>員名</td>
<td>員名</td>
<td>研究分野</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>--------</td>
<td>-----------------</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>森田伸明</td>
<td>教授</td>
<td>物理学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>梅田正男</td>
<td>教授</td>
<td>理論物理学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>小林智恵</td>
<td>助教</td>
<td>宇宙物理学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>塚原英俊</td>
<td>助教</td>
<td>半導体物理学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>高木浩司</td>
<td>助教</td>
<td>電子材料物理</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>藤森二郎</td>
<td>助教</td>
<td>電子物性</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>橋本英樹</td>
<td>助教</td>
<td>半導体電子工学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>石井泰男</td>
<td>助教</td>
<td>電子工学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>松本英樹</td>
<td>助教</td>
<td>電子情報工学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>井上達也</td>
<td>助教</td>
<td>電子情報工学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>坂本英樹</td>
<td>助教</td>
<td>電子情報工学</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）1. 本表は、本学の教育研究者を対象としたものです。実際の教育研究者選考に基づくものではありません。
2. 本学の教育研究者の選考に関しては、個々の研究分野や教育研究者に関する情報が含まれています。
お茶の水女子大学
コンビニエンスストアでの入学検定料支払方法のご案内

出願締切前日の13時までに操作してください

下記のコンビニ端末にてお支払いください

各入試の出願期間1か月前より、お支払いいただけます。

1. お申込

①セブン-イレブン
マルチコピー機

http://www.sej.co.jp

募集者の「マルチコピー機」または「マルチコピー機」をご利用ください。

TOP画面の「学習・教育」にマウスを合わせます。

学習・教育

入試検定料支払

②ファミリーマート

http://www.familymart.co.jp

募集者の「ファミリーマート」にてお申込ください。

TOP画面の「学習・教育」にマウスを合わせます。

学習・教育

入試検定料支払

③ミニストップ

http://www.ministop.co.jp

募集者の「ミニストップ」にてお申込ください。

TOP画面の「学習・教育」にマウスを合わせます。

学習・教育

入試検定料支払

④ローソン

http://www.lpp.co.jp

募集者の「ローソン」にて支払方法をご確認ください。

TOP画面の「学習・教育」にマウスを合わせます。

学習・教育

入試検定料支払

⑤KセーラーK・サンクス

http://www.circlek-kss.com

募集者の「KセーラーK・サンクス」にてお申込ください。

TOP画面の「学習・教育」にマウスを合わせます。

学習・教育

入試検定料支払

お茶の水女子大学またはお茶の水女子大学大学院をマウスチッピングして、申込情報を入力して「私分料／申込料／支払料」を発行ください。

コインレジでお支払いください。

端末より「払込書（マルチコピー機）または申込書」（Loppi、Famiポート）または「払込書」（KセーラーK・サンクス）が出力されますので、30秒以内にレジにてお支払いください。

お支払い後、チケットとレシートの２種類をお受け取りください。

「取扱明細書」（マルチコピー機、KセーラーK・サンクス）または「取扱明細書兼領収書」（Loppi、Famiポート）。

※お支払い後、入試検定料はコンビニでは現金です。

※お支払い後に入試検定料のお支払いがない場合は、入力された情報をキャンセルとなります。

※すべての支払方法に従って入試検定料の支払いが不十分な場合、払込手数料が関税がかかります。

払込手数料 入試検定料が5万円未満 488円

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「取扱明細書」部分を切り取り、領収書裏面の所定の位置に貼付け、出願書類とともに郵送してください。

謄写する場合、「領収書・払込書」をはがきに封筒に貼り付けて、郵便局へお持ちください。

【問い合わせ先】学習・教育サポートセンター https://e-apply.jp/ ※コンビニ案内ではお伝えできません。
○お茶の水女子大学交通案内

【JR池袋駅から】
東京メトロ丸ノ内線　「新宿、荻窪方面行」若荷谷駅下車　徒歩約7分
東京メトロ有楽町線　「新木場方面行」　護国寺駅下車（5番出口）　徒歩約8分
都営バス-都02乙　「春日駅(一ツ橋)行」大塚二丁目下車　徒歩約1分

【JR東京駅又はJR御茶ノ水駅から】
東京メトロ丸ノ内線　「池袋方面行」若荷谷駅下車　徒歩約7分

【JR大塚駅から】
都営バス-都02　「JR鶴見町駅行」大塚二丁目下車　徒歩約1分